

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 25日

所属	基盤教育機構	職名	教授	氏名	磯山 友幸
研究課題	国及び企業におけるアカウンティビリティの研究				
研究キーワード	アカウンタビリティ、ガバナンス、経済と道徳、企業倫理、情報倫理、会計、監査	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	10.人や国の不平等をなくそう	16.平和と公正をすべての人に	17.パートナーシップで目標を達成しよう	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>アカウンタビリティの事例として、計画策定段階では想定していなかった学校法人のガバナンス改革が急速大きなテーマになったことから、2021年度は、この改革議論のフォロー及び、関係当事者へのインタビューや議論、論評記事の発表等に時間を割いた。以下のほか、オンラインによる勉強会を設定し研究促進を行なった。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「118年続く大日本報徳社の常会 二宮尊徳の教えを学ぶ意義」（月刊ウェッジ 2021年8月号） ・『『経営不在』『理事長独裁』の私立大学に歯止めはかかるか 文科省『ガバナンス改革会議』渋々発足』（講談社「現代ビジネス」2021年7月23日掲載） ・「独裁と『経営不在』の歪んだ聖域 大学法人にメスは入るか」（新潮社「フォーサイト」2021年7月30日） ・「国民の税金を使っているのに、あまりにお粗末なガバナンス 日大問題が起きた根本原因 権限手放したくない文科省の罪深さ」（「プレジデント・オンライン」2021年9月21日） ・「独裁と『経営不在』の歪んだ聖域 大学法人にメスは入るか」（新潮社「フォーサイト」2021年9月30日） ・「日本大学『田中理事長逮捕』、大学のガバナンス欠如は文科省の責任だ 理事長になればやりたい放題を放置」（講談社「現代ビジネス」2021年12月1日） ・「大学にガバナンスは要らない？ 監督強化に抵抗する理事長たちの理屈 このままでは第二第三の田中容疑者が」（講談社「現代ビジネス」2021年12月16日） ・「これでは『日大問題』はどこの大学でも起きる…文科省が改革から後退のワケ さすがに改革派が反旗あげる」（講談社「現代ビジネス」2022年1月29日） <p>【学会発表等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来を創る財団主催オープンフォーラム「日本の低い生産性 原因に迫る」で、田村耕太郎）リークアンユール公共政策大学院兼任教授と対談 <p>3. 主な経費</p> <p>本学での研究を開始するに当たって、最低限必要なパソコン及びプリンター複合機を購入</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>なし</p>					
（本文は2ページ以内にまとめること）					